

郷之口

信楽街道と田原川が交わる物流の要所に位置する郷之口には、うなぎの寝床状の敷地が並ぶ城下町由来の都市構造を基盤として、茶問屋街が形成されています。



① 郷之口の町並み

出格子がなく軒下に広い空間がある町家が並び、かつての物流の様子を窺わせます。



② 郷之口の茶問屋

郷之口の東端の犬打川脇に位置する一際大きな茶問屋。



③ 柿屋

宇治田原の冬の風物詩の「柿屋」。茶園には柿の木が必ず植えられており、茶生産の原風景が見られます。

⑤ 永谷宗円生家

谷奥の茶宗明神社の脇に立つ永谷宗円の生家跡。内部に当時のほいろ跡が保存されています。



⑥ 湯屋谷集落の景観

細い谷間に建物が並ぶため、石垣の上にそそり立つ様に茶農家や茶問屋の建物が並んでいます。



⑦ 木造3階建の製茶場

急斜面の際に建つ唯一の木造3階建ての製茶場で、谷の入口に構える偉容は茶生産の盛況ぶりを物語ります。



⑧ 大福谷

宇治田原の茶発祥の地。細い谷間は周囲の樹木で日光が遮られ、天然の覆下茶園おおいしたの様な環境となります。

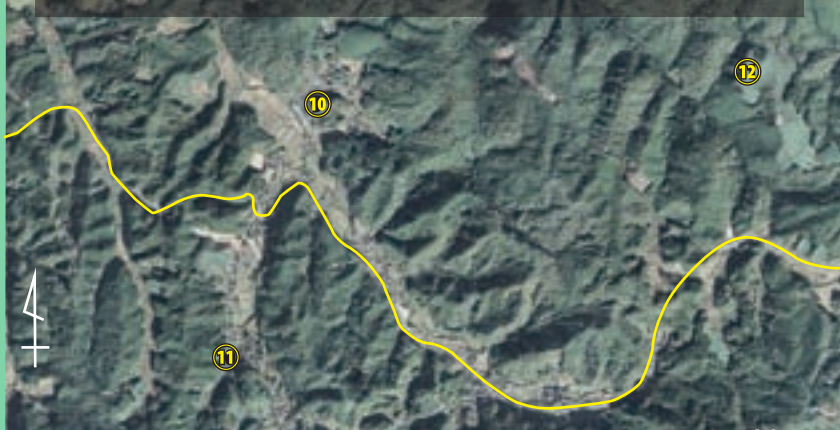


湯屋谷

永谷宗円等が「青製煎茶製法」を開発したと伝えられる地。江戸に販路を開いたため、谷深い地ながら茶問屋が並ぶ特異な集落形態が見られます。

奥山田

昔ながらの水田と茶園を併せ持つ素朴な集落景観と、急勾配の集団茶園を有する地域です。



⑩ 明治の山なり茶園

小高い丘の斜面に小さく茶園が見えますが、形状や植生からかつては丘全体が茶園だったことが伺えます。



⑪ 奥山田の集落

集落・水田・茶園が一体となっている茶生産の原風景が見られます。



⑫ 急斜面の集団茶園

奥山田の寒暖差の大きい気候を活かし、山々を一望できる高所に開かれた集団茶園で、急斜面を茶の畝が覆います。



和束町域の宇治茶の生産景観

石寺・撰原・釜塚・原山・湯船



③ 釜塚の山なり茶園

集落の真後ろに急斜面の巨大な山なり茶園が控える独特の景観を見せます。



概要

和束町域は木津川の支流である和束川を中心に形成された山村です。古代から信楽と奈良を結ぶ重要な交通路として、重要な位置にありました。交通路沿いには中世の石造物も見られ、また南山城を代表する中世山岳寺院である鷲峰山金胎寺を擁するなど、歴史的な遺産も多く目に見ることができます。

現在、和束町は京都府内でもっとも茶生産量が多く、**京都府を代表する茶生産地**となっています。茶生産の歴史は古く、鎌倉時代には鷲峰山麓で栽培が始まったとされています。その後、江戸時代にも生産は確認されますが、とりわけ栽培面積が大きく拡大したのは19世紀以降です。煎茶輸出などを背景に、南山城地域で茶栽培が拡大するなか、和束町域でも**集落裏側の山腹が山なりに開墾**されていき、その結果、宇治茶の一大産地へと展開していきました。

原山・釜塚・石寺・撰原の各地区は、山なりに開墾された茶園と集落が織りなす独特の景観が見られ、京都府の文化的景観に選定されています。

また、湯船地区は宇治茶の生産集落を代表する景観が残されています。



⑨ 湯船の集落景観

湯船地区には、茶工場を有する伝統的民家が群として残されています。

石寺・撰原



① 石寺の山なり茶園



② 撰原の山間の茶園

和東川を挟んで立地する石寺と撰原ですが、茶畑は谷底を通る主要道からは見えません。集落に上がっていくと、とても想像もできないような素晴らしい茶畑景観が広がります。

釜塚では、集落背後の急傾斜の山が頂まで茶畑として開墾された、独特の景観が見られます。

山裾に茶農家等が密集する集落の中には、茶工場も点在しています。



④ 釜塚集落の茶工場



釜塚



原山



⑤ 原山の山なり茶園



⑥ 金胎寺宝篋印塔

原山は、背後に標高682mの鷲峰山が控える集落です。中世山岳寺院を代表する金胎寺が位置し、山頂には正安2年(1300)の銘をもつ宝篋印塔ほうきょういんとうがあります。金胎寺の活動のなかで、原山は和東のなかでもっとも早くから茶がもたらされたと考えられています。集落周辺には、見事な山なり開墾の茶畑が広がり、集落内には茶工場も見受けられます。



⑦ 湯船の伝統的民家と茶工場



⑧ 湯船集落と茶園

湯船地区では、林業、稲作、茶業の3つの生業が展開してきました。伝統的民家や茶工場を含む集落景観がよく残されており、宇治茶の生産集落を代表する地区となっています。外での農作業にあわせて雪隠や井戸屋形が屋敷の周囲に配置されているのも特徴です。



湯船

南山城村域の宇治茶の生産景観

田山、高尾、童仙房、今山



⑨田山の集団茶園

田山、高尾の茶園は、緩勾配を駆け上がるように茶畝が伸びる「縦畝」の形式に特徴があります。木々の残る山間に茶園が点在する美しい景観が見られます。

概要

南山城地域は木津川水運を背景に、幕末からの煎茶の輸出を契機として茶園を徐々に拡大してきた生産地です。生産地は田山、高尾、童仙房、今山の4地域に広がっています。

南半に位置する田山、高尾では、**縦畝の茶園景観**が際立っています。山中に山なりに開墾された緩勾配の茶園が点在し、それらを縫うように畝が縦断する様は、宇治茶生産の景観の中でも特徴的な眺めです。縦畝は乗用摘採機の導入にも適しており、生産の合理化と伝統的な景観とが両立したものでもあります。

高尾では、尾根に沿って点在する家屋が茶園に取り囲まれる、**古くからの茶生産景観**が見られます。

また、童仙房は標高500mの山間の平坦地に明治初期に開墾された集落で、**水田と山なり茶園が対をなす素朴な景観**が残っています。

昭和44年の高山ダム建設に伴い造成された今山では、他の地区には見られない平坦な茶園景観が広がります。

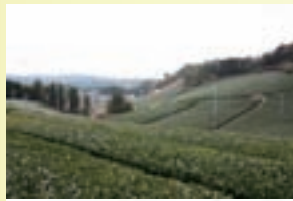
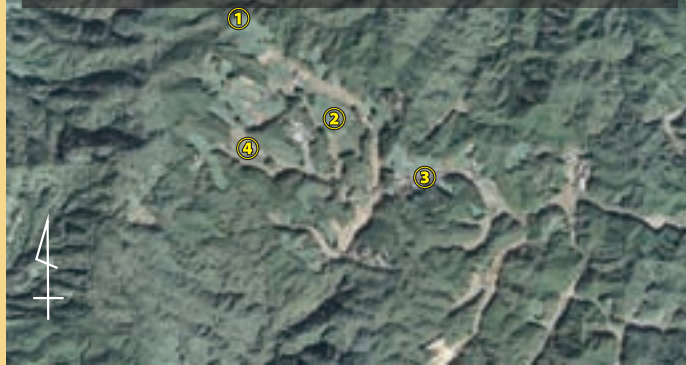


④童仙房の茶園景観

茶園と水田が谷間に沿って対をなす茶生産の原風景が見られます。

童仙房

南山城村の北端に位置する、京都府南部でも最も標高の高い地区で、明治期に新しく開拓された村です。戦後にも大きく開拓され、独特の茶園経営がなされてきました。



①童仙房の集団茶園

南山城村の中でも童仙房では縦畝ではなく横畝が優勢で、村内の茶生産の景観の多様性がうかがえます。



②茶畑と水田

斜面の茶畑と平地の水田が対になる茶生産の原風景が見られます。



③童仙房の町並み

山中に突如現れる町並みは開拓村としての童仙房の歴史を物語ります。

高尾

名張川の西側に位置する、標高の高い丘陵上に開かれた茶生産集落です。急勾配の斜面に、南山城特有の縦畝茶園が広がります。岩が多い地質の影響から、所々に茶園から岩が露出する光景も見られます。



⑤高尾の集団茶園

縦畝が斜面を走り、丘を越えていく南山城特有の茶園の景観です。



⑥高尾の茶園と家屋

平地の少ない高尾における伝統的な家屋と茶園の関係がよくうかがえます。



⑦岩山の茶園

巨岩が露出する山を覆うように作られたこの茶園からは象徴性が感じられます。

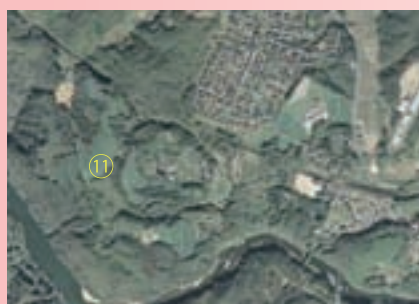
今山

昭和44年の高山ダム建設に伴う新たな造成地で、木津川右岸の丘陵地に位置します。他に見られない平坦な茶園が広がります。



田山

名張川の東側に位置し、緩やかな丘陵に多くの谷筋が入る地形に茶生産景観が広がります。集落、水田と茶園がまとまりをなす伝統的茶園景観に加え、集落から離れた山間に大規模な縦畝の茶園が広がる集団茶園も見られます。



⑧田山の縦畝茶園

縦畝が多くみられる茶園景観。縦畝の茶園が斜面に広がる独特の美しい景観です。



⑨田山の集団茶園

畝の向きが複雑に変化し、斜面を織りなしていく独特の風景が一望できます。



⑩田山の集落と茶園

茶園と水田の間に家屋が建ち並び、昔ながらの茶農家の生活景観が良く残っています。

⑪今山の茶園

平坦で畝長約200mに及ぶ茶畑は他に類を見ない特徴があります。

木津川市域の宇治茶の生産景観

山城町上粕



① 大正期建築の茶問屋

大正期には茶の販路が国内向けとなり、質の高い茶を安定して販売することで、茶問屋が隆盛を極めました。広い間口に長屋門を構え、中庭に面して茶工場と主屋を並べる屋敷構えが特徴です。

概要

上粕には、木津川水運を利用した交通の結節点である地の利を活かした茶問屋街が形成されています。

綿業を商っていた家々が、幕末からの煎茶の輸出拡大にともない、順次茶問屋へと転換し発展したもので、奈良街道に沿って広い間口を有する茶問屋が立ち並ぶ通り景観を見せます。

現存する茶問屋の建物は、幕末建設のものから、販路が国内向けとなった大正、昭和初期に建設されたものまで多様に残っており、広い間口を活かして長屋門を構え、中央の庭を茶工場と主屋が囲む、明治以降に発展した茶問屋らしい合理的な配置をみせます。



② 焼杉板で囲まれる路地空間

茶業の隆盛に伴い、街道沿いから裏手へと茶問屋街が広がりました。路地では焼杉の腰板を張った茶工場や土蔵に囲まれる独特の景観が見られます。



④ 江戸時代後期建築の茶問屋

茶の輸出が始まった江戸時代後期に建設された茶問屋です。上粕が綿業の集落から茶問屋街へと転換していく初期のもので、街道に面して間口一杯に茶工場を配する古い配置形式を残しています。



③ 近代化された茶工場

茶工場は戦後、鉄筋コンクリート造の近代化されたものに変わっています。大正期以来の上粕の茶問屋独特の建物配置は継承されています。

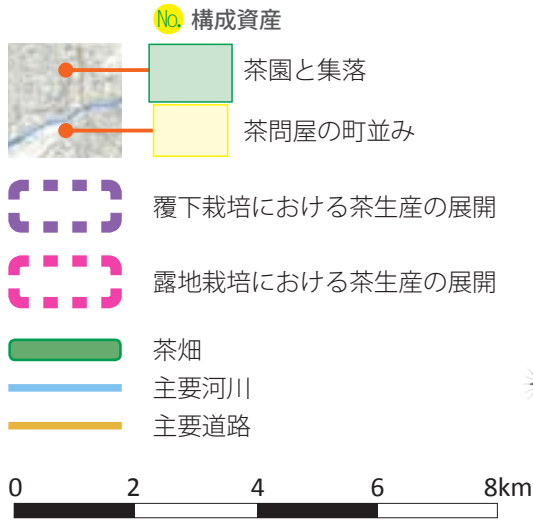


⑤ 泉橋寺地藏菩薩

奈良街道が木津川を渡る箇所にかけて架けられていた泉橋の橋詰めに立つ、鎌倉時代造立の大きな地藏です。河川と街道が交差する上粕の地理的特性のランドマークとなっています。

③ 「宇治茶の文化的景観」構成資産位置図

凡例



※ 図中の緑色部分は国土地理院発行の2万5千分の1地形図に示された茶畑を着色したものの

城陽市域

3 上津屋



八幡市域

4 上津屋 のじり野尻 いわた岩田



京田辺市域

5 飯岡



木津川市域

18 上狛

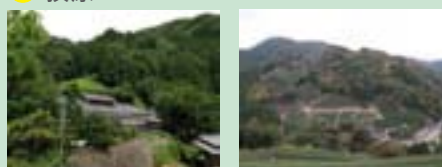


和束町域

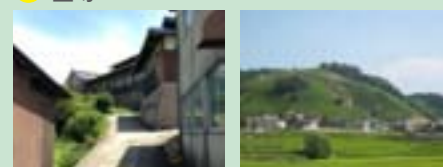
9 石寺



10 撰原



11 釜塚



宇治市域

1 なかうじ
中宇治



2 しらかわ
白川



宇治田原町域

6 こうのくち
郷之口



7 ゆやだに
湯屋谷



8 おくやまだ
奥山田



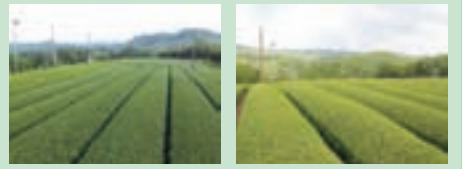
京都府南部
山城地域

南山城村域

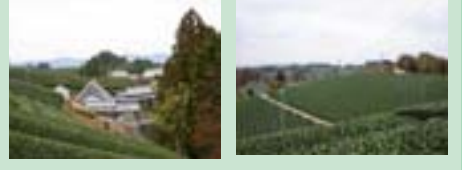
14 どうせんぼう
童仙房



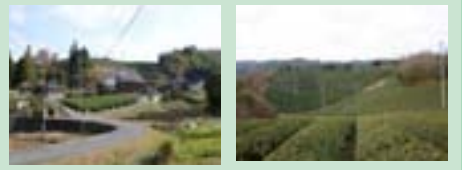
15 いまやま
今山



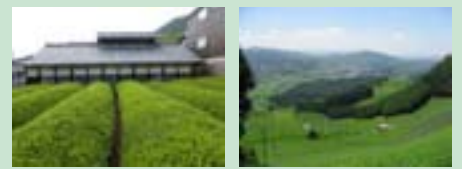
16 たかお
高尾



17 たやま
田山



12 ほらやま
原山



13 ゆふね
湯船

